

強調し、来社の高瀬和活動の基本「初心を大切に」

移ると、社長長表彰、協社、職長品を贈呈。

発表では、ルディ吉島(2)護(2)整備士

の現場担管理の方法があった。

宣言を読み化の定着にを新たにし

梁など近接箇所は、ド

は縦横断測を見直す。結果を確認

十河氏らの留任決める 第13回総会を通常開催 広島県コンクリート診断士会

広島県コンクリート診断士会(十河茂幸会長)は23日、第13回総会を広島市中区で開催。各議案を事務局原案通りに承認したほか、役員改選では十河会長ら主要役員の留任が決定。浅沼組技術研究所材料研究グループリーダーの山崎順二氏によ

る記念講演も披露された。代表者のあいさつで十河会長(近未来コンクリート研究会)は、2011年の設立時に75社(うち賛助会員17社)だった会員が23年3月末現在で118社(同29社)と大幅に増え、11年とい

えば私が広島大教授として広島に着任した年だったが、この会はまだまだ発展すると思う。本日も各議案の審議のほか、SDGsに関する貴重な講演をいただくので、最後までお付き合いいただきたい」と述べた。

議長を務め、会員の技術交流と親睦を目的に隔月で開いている定例会のほか、コンクリート調査・診断補修業務における公共支援、中国5県の診断士会と連携して実施した中国整備局との意見交換会などの22年度事業報告を行い、関連収支決算などを承認。



十河会長

23年度もこれらの事業を継続し、診断士の技術力と社会的評価・地位の向上を目指すことで社会の発展、安全・安心への貢献などの役割を果たしていく方針を申し合わせた。

また、記念講演では、山崎氏が「大阪・関西万博におけるSDGs」と題し、コンクリート系材料による脱炭素・資源循環関連技術などを紹介。終了後には懇親会も催された。

(かとう) 性管のみであるため、新たにボックスカルパートを対象に加えて、「巨港内の非水産

改正地域公共交通活性化再生法は、ローカル鉄道の再編に向けた協議会

方針の策定、水道事業などの認可、改善指示、報告徴集・立ち入り検査など